

評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所名	ハートホーム宮野グループホーム		
所在地	山口市宮野下2997-5		
電話番号	083-934-5610	事業所番号	3570300446
法人名	社会福祉法人 青藍会		

訪問調査日	平成 21 年 9 月 24 日	評価確定日	平成 21 年 11 月 26 日
評価機関の名称及び所在地	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク 山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		

【情報提供票より】

(1) 組織概要

開設年月日	平成 12 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員計	9 人
職員数	10 人	常勤 8 人 非常勤 2 人 (常勤換算 7.7 人)	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り	
	3 階建ての	3 階部分

(3) 利用料等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃	月額 60,000 円	敷金	無 円
保証金	無 円	償却の有無	無
食費	朝食 420 円	昼食 578 円	
	夕食 578 円	おやつ 0 円	
その他の費用	月額 14,000 円		
	内訳 光熱水費 約8,000円(実費) その他の日常生活費 6,000円		

(4) 利用者の概要 (9月24日現在)

利用者数	9 名	男性 2 名	女性 7 名	
	要介護1	1	要介護4	1
	要介護2	6	要介護5	1
	要介護3	0	要支援2	
年齢	平均 86.4 歳	最低 79 歳	最高 95 歳	

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	内科 あんの循環器内科、山口赤十字病院、仁保病院 歯科 山口赤十字病院
---------	--

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

(優れている点)	家族交流会や運営推進会議など毎月家族が交流し情報交換する場が確保され、外食や行楽、ホーム内の行事を利用者と一緒楽しんでおられます。毎月写真をふんだんに使ったホームだよりと共に健康状態や暮らしぶりなどを個別に報告し、電話による報告や共通理解も日常的に行なわれます。習字・フラワーアレンジメント・ボール体操など外部ボランティアとの関わりあいもあり、併設施設で行なわれる大正琴やピアノのコンサート、パワーリハビリなど、利用者の生活の向上とサービスの質の向上に努めておられます。
(特徴的な取組等)	法人はISO2001を取得しており、マニュアルや組織体制が整備されています。接遇・身体拘束・医療安全・感染症対策・褥創対策などの各種委員会を設置し、年2回はISO会議を行ない業務手順やマニュアル等の不備を見直し改善を加えながらサービスの質の維持管理に努めておられます。法人独自の褒賞制度があり、環境美化に改善のあったところや優秀な提案、善行を評価し、職員のやる気の向上に努めておられます。

【重点項目への取組状況】

(前回の評価結果に対するその後の取組状況)	評価結果について職員ミーティングで話し合い、職員を育てる取り組みを工夫する等改善に取り組んでおられます。
(今回の自己評価の取組状況)	自己評価の意義を職員全員に説明し、職員がそれぞれ分担して評価をおこない、管理者がまとめておられます。まとめたものを職員のミーティングで意見交換をしながら検討しあい、最終的な自己評価とされています。
(運営推進会議の取組状況)	利用者8~9人、家族2~3人、地域の民生委員でもある第三者委員、学童保育関係者、地域包括センター、ホームの職員で2ヶ月に1回実施されています。少し改まった緊張感のある場への参加は利用者にとってもいい効果があり、前向きな話し合いが行なわれています。
(家族との連携状況)	2ヶ月に1回の家族交流会、2ヶ月に1回の運営推進会議など家族の交流を支援しており、遠方で参加できない家族には電話連絡などできめ細かな連携をされています。毎月個別に暮らしぶりを報告すると共に、写真をふんだんに使ったホーム便りも共に送付されています。
(地域との連携状況)	地域の行事や公民館や地域交流センター(ふれあい館)の行事に参加し学童保育との連携や、散歩や畑の手入れや見回り時にご近所の声かけもあります。

評価結果

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>理念に基づく運営</p>			
<p>1. 理念の共有</p>			
<p>1 (1)</p>	<p>地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。</p>	<p>地域密着型サービスとして「私達は、皆さんが毎日笑顔で自分らしい生活ができるよう支援し、施設から外へ飛び出すことで、地域の方々と楽しく共に過ごしていく」という事業所独自の理念をつくりあげている。</p>	
<p>2 (2)</p>	<p>理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>ホーム内に掲示すると共に、申し送りや職員全員が参加するミーティングでも話し合い、理念を共有しながら実践に向け取り組んでいる。</p>	
<p>2. 地域との支えあい</p>			
<p>3 (7)</p>	<p>地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>地域の行事や公民館、地域交流センターの行事に参加し、学童保育との交流も進められており、戸外活動や散歩時には周辺住民との声かけも気軽に行われている。</p>	
<p>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</p>			
<p>4 (9)</p>	<p>評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>自己評価や外部評価の意義を職員に説明しており、評価結果についてもミーティングで共通理解し、改善に向け取り組んでいる。</p>	
<p>5 (10)</p>	<p>運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。</p>	<p>利用者8～9人、家族2～3人、第三者委員、学童保育関係者、地域包括支援センター、ホームの職員で2ヶ月に一回実施している。少し改まった緊張感のある場への参加は利用者にとってもいい刺激となり、前向きな話し合いが行なわれている。</p>	
<p>6 (11)</p>	<p>市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>市との連携や意思の疎通は十分に図られており、市と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7 (16)	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	毎月、利用者個別の近況報告を行ない、共に送付するホームだよりは写真をふんだんに使いホームでの暮らしぶりが良くわかる。金銭管理状況は面会時に報告し、遠方の家族には定期的に電話でも報告している。	
8 (18)	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	ホーム独自の意見苦情申立書と共に窓口に意見箱を設置し、第三者委員や外部機関も明示され、苦情処理の手続きも明確に定めている。意見苦情申立書は自由記載も出来るが、様式により記載すると課題や問題が明らかとなる。2ヶ月に1回家族交流会を行い家族の意見を聞いている。	
9 (20)	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	併設施設の支援体制もあり、必要に応じ管理者を中心に職員同士の話し合いにより対応している。	
10 (21)	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、変わる場合は利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	原則的に不必要な異動は行っていないが、離職に伴う異動が生じた時は、利用者との信頼関係やなじみの関係づくりを第一に考え、夜勤は一ヶ月半後から行なっている。	
5. 人材の育成と支援			
11 (22)	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内研修は毎月行われ参加している。新人研修や経年研修、新管理者研修等体系的に実施されている。グループホーム内でも毎月研修を行っており、週一回は職員回り持ちの一分間のフリートークを実施している。外部研修への参加も推奨している。	
12 (24)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	2ヶ月に1回市内の介護サービス提供事業所連絡協議会主催の施設サービス部門に参加し交流を図っている。持ち回りで行なう同一法人内の5つのグループホーム交流会でもサービスの質の向上に取り組んでいる。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
13 (31)	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	家族が記載するバックグラウンド情報から生活歴を理解し対応している。施設からの入居の場合は施設で面談するが、家から入居される場合はホーム内で家族と面談を行い、自宅訪問は行っていない。併設のデイサービスへ通所している利用者とは顔なじみの関係となっている人もある。	・家庭訪問や体験利用など、馴染みながらのサービス利用の検討
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
14 (32)	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	調理、後片づけ、掃除、洗濯物たたみ等の家事を一緒に行い、趣味活動の支援や戸外活動など日常生活を共に行なう事で共に過ごし支えあう関係を築いている。	
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握			
15 (38)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	家族が記載するバックグラウンド情報から生活歴や趣味、嗜好を把握すると共に、利用者一人ひとりの言葉を傾聴し、暮らし方の希望や意向を把握している。困難な場合は本人本位に検討している。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
16 (41)	チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	毎月1回スタッフ全員が参加するケアカンファレンスで介護計画に対する評価を行ない、3ヶ月毎にケアプランの見直しを行っている。家族や利用者の希望、状態を検討し、介護計画を作成している。	
17 (42)	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行なうとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	3ヶ月に1回見直しをしているが、状態に変化が生じた時はその都度家族や関係者と話し合い、現状に即した介護計画を作成している。	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
18 (44)	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	緊急対応時の受診や歯科受診を支援し、行楽や屋外行事では移送サービスを行なっている。24時間医療連携体制により、同法人の訪問看護の24時間体制の支援を受けている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
19 (49)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	2週間に1回協力医療機関の訪問診療がある。必要に応じ通院や電話相談も行き、適切な医療が受けられるよう支援している。	
20 (53)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	入居時に重症化や終末期に関しての指針を説明している。家族、協力医療機関の医師、看護師と話し合う場を設け、全員で方針を共有している。必要に応じ家族や本人の思いや考えを聞きながら対応している。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
21 (56)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	朝礼時にはミニ研修として利用者に対する言葉かけを確認し合い、誇りや人権に配慮した言葉かけをしている。記録など個人情報の管理も適切である。	
22 (59)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者一人ひとりの希望やペースを尊重しながら、その人らしい暮らしが出来るよう支援している。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
23 (61)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事は三食共に法人厨房から配食されるが、一品は畑で採れた野菜を使った副菜や利用者が希望する副菜やおやつを添え、調理や盛り付け、配膳等食事を楽しんでいる。月に1度は、買い物から調理まで利用者と共に、食事が楽しみになるよう努めている。	
24 (64)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	毎日午後から、全員が入浴をしている。希望に合わせて、夕食後の入浴も対応している。入浴を嫌がる場合は、時間をおき、職員も変わり、声かけし、無理強いしないように支援をしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
25 (66)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	散歩や外出、畑の世話や見回り、飼っている犬の世話、外部講師による習字やフラワーアレンジメント、建物の2階で行なわれるボール体操やパワーリハビリ、大正琴やピアノの演奏会などにも参加し、張り合いや喜びのある日々が過ごせるよう支援している。	
26 (68)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	事業所が3階にあるため、散歩やホームの畑の見回りや世話など出来るだけ戸外に出かける機会を作っている。近所のスーパーでの買い物や、地域の交流センター(ふれあい館)の行事にも参加し、外出を支援している。	
(4) 安心と安全を支える支援			
27 (74)	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が、「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	「身体拘束委員会」を設置し、身体拘束についての理解を深め抑制や身体拘束のない介護に取り組んでいる。	
28 (75)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	ホームは3階にあり、1、2階は併設施設になっている為、安全への配慮から施錠する事もあるが、施錠の弊害は職員全員よく理解しており、職員の目の届く時は鍵をかけていない。	
29 (78)	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	法人の医療安全対策委員会に参加し、ヒヤリはっとミスや事故が発生した場合は検討し再発防止に取り組んでいる。服薬は職員2人で確認し誤薬の防止に努めている。	
30 (79)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	マニュアルを整備し、AEDの取り扱いや心肺蘇生法の訓練を不定期に実施しているが、その他の初期対応の定期的な訓練までには至っていない。	・定期的な訓練の実施
31 (81)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	マニュアルを作成し、避難誘導訓練を年2回行っているが、地域への働きかけは検討中である。	・地域への働きかけ

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
32 (84)	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	薬の情報は個人ファイルと薬手帳で把握し、職員がいつでも確認できるようにしている。月に2回の訪問診療や訪問看護による健康観察の際、必要な情報はフィードバックしており、必要に応じ薬剤師の訪問指導を受けることも出来る。	
33 (86)	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力量に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	毎食後、利用者一人ひとりの力量に応じた口腔ケアを行っており、義歯の消毒は週二回行っている。	
34 (87)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	法人からの配食で栄養バランスやカロリーは管理されている。食事摂取量は毎食把握しており、必要な人には摂取水分の把握も行っている。	
35 (88)	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	法人内に「感染症対策委員会」があり、「感染対策マニュアル」に沿った手洗いやうがい、手すりや共同スペースなど定期的に消毒を行っている。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
36 (91)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	共用の場には、観葉植物や季節の花、利用者の習字や手工芸の作品が飾られている。3階のため明るい雰囲気にも優れている。オープンキッチンからは食事の支度の音が感じられ、飼っている犬も癒しとなっている。	
37 (93)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	備え付けのタンスもあるが、タンスやテレビ、CDプレイヤー、仏壇等使い慣れた家具が持ち込まれ、壁面には家族の写真や利用者の作品が飾られ、その人らしく安心して過ごせるよう工夫してある。	

自己評価書

【ホームの概要】

事業所名	ハートホーム宮野
所在地	山口市宮野下2997 - 5
電話番号	083 - 934 - 5610
開設年月日	平成 12 年 4 月 1 日

【サービスの特徴】

当グループホームでは毎月1度家族交流会としてご家族様と一緒におやつ作りや、会食、季節に合った行事の外出(りんご狩り、虫見学など)を実施し、月毎の行事を行い季節感を味わい気分転換を図り、その都度写真を撮りホーム内に掲示をすると共に毎月グループホーム便りをご家族様へ発行し、ご利用者様のご様子や生活風景を発信しています。また2ヶ月に1度運営推進会議を開催し地域住民、市包括支援センター、ご利用者様、ご家族様、職員の参加により近況報告を行い、情報交換、意見交換を行っています。地域資源の活用としては、地域のスーパーへの買い物や散歩、また地域のお祭りへの参加、小学校の運動会、音楽会の参加など行い交流を図っています。脳活性化リハビリ、パワーリハビリにより各々の機能の向上を図り個々の残存機能を日常生活の中で活かせるような自立への支援を行っています。急変時には、医療連携を図り訪問看護ステーションが24時間対応できる体制をとり、安心して穏やかに過して頂けるよう支援しています。

脳活性化

【実施ユニットの概要】 (8 月 31 日現在)

ユニットの名称	ユニット1			
ユニットの定員	9 名			
ユニットの利用者数	9 名	男性 2 名	女性 7 名	
	要介護 1	3	要介護 4	
	要介護 2	4	要介護 5	1
	要介護 3	1	要支援 2	
年齢構成	平均 86.4 歳	最低 79 歳	最高 95 歳	

【自己評価の実施体制】

実施方法	職員全員に1人あたり14項目から15項目ずつ割り当てそれぞれの自己評価に基づき記入し、それを管理者がまとめる。まとめた表をミーティングで話し合い検討をし実施していく。
評価確定日	平成 21 年 8 月 25 日

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取 組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>理念に基づく運営 1. 理念の共有</p>			
1 (1)	<p>地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。</p>	<p>地域の中で暮らしていく事を支えるサービスを職員の意識統一を図り理念を構築している。</p>	
2 (2)	<p>理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>毎日朝礼を行い、勤務職員で理念を唱和し、又月に1回のミーティング、カンファレンスを実施し全員参加により意識を統一し日々のケアに取り組んでいる。</p>	
3	<p>運営理念の明示 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。</p>	<p>朝礼場所に理念を掲示し、毎日朝礼を行い、勤務職員で理念を唱和する事で明確に示している。</p>	
4	<p>運営者や管理者の取り組み 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえて、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。</p>	<p>サービスの質の向上に向け月に1度の全員参加のミーティングを実施し、その中で話しをしている。管理者は積極的に業務に参加するよう取り組んでいる。</p>	
5	<p>家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。</p>	<p>ご家族様には毎月のホーム便りに理念を掲示し又、運営推進会議等でも理念の実践に向けた取り組みを話している。</p>	
<p>2. 地域との支えあい</p>			
6	<p>隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえようような日常的な付き合いができるよう努めている。</p>	<p>毎日の散歩やグループホームの畑の作業時など近隣住民の声掛け、挨拶は行っているが気軽に立ち寄りお付き合いは出来ない。</p>	<p>どんどん近隣住民と交流を深め、ご理解頂、気軽に立ち寄りてもらえようような働きかけを行いたい。</p>
7 (3)	<p>地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>自治会には加入していないが、地域の行事(宮野祭り)、小学校の音楽会等に参加し交流を図っている。</p>	
8	<p>事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>外出で地域交流センター(ふれあい館)の催しもの見学へ出かけたり、地域の学童保育の方とも話し合いホームへ児童が訪問出来るような働きかけを行っている。(実施はしていない)又、月に一度お話ボランティアの方が来られる。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
9	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	ミーティング時に、自己評価や外部評価を行う意義を説明し項目毎に職員に振り分け内容を理解し、取り組んでいく努力をしている。	
10 (5)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	2ヶ月に1回実施する事で包括支援センター、ご利用者様、ご家族、第三者委員、当日職員の参加で近況報告、活動内容を報告し、質疑応答によりサービスに取り組んでいる。	地域住民の参加が少ないので自治会長、民生委員の方への参加をお願いするようにしている。
11 (6)	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	市役所介護保険課、地域包括センターとは疑問や質問を行い相談をしている。運営推進会議の実施時にはご利用者様からも質問等あり直ぐに対応していただいている。	
12	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。	勉強会を行う機会はあるが地域福祉権利擁護事業や成年後見制度については実施できていない。	今後の勉強会の中で取り上げていくように、交渉を行う。このような関係の研修があれば、職員の参加を促していく。
13	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	施設内に身体拘束防止委員会を設置し、施設内での虐待が絶対に起こらないよう話し合い、注意を払い、虐待防止に努めている。	
4. 理念を実践するための体制			
14	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居時、契約を行う時には、契約書、重要事項説明書を基に、説明し理解、納得されサインをいただくように努めている。	
15	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	契約の際に意見やクレームを表すための方法の説明を行い施設内に設置してある「ご意見箱」の活用も説明している。	
16 (7)	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	健康状態、近況報告、金銭管理は面会に来らる度に行い、遠方のご家族様へは定期的に電話にて報告を実施している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17	情報開示要求への対応 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。		
18 (8)	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。		
19	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。		
20 (9)	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。		
21 (10)	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援			
22 (11)	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。		
23	職員配置への取り組み 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。		
24 (12)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。		
26	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。		
27	職員の業務に対する適切な評価 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
28	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		
29	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		
30	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
31 (13)	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。		今後はご本人様も含めサービス内容の確認等を行う事を検討する。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
32 (14)	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
33	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。		
34	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。		
35	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。		
36	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。		
37	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握			
38 (15)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。		
39	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。		
40	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
41 (16)	チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	入居時にご本人、ご家族の意見を聴きケアプランを作成しカンファレンスを毎月1回行い評価している。	
42 (17)	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	急な状態の変化に対応するように、定期的なミーティングを実施し職員と話し合い、ご家族に同意を頂き、現状に即した新たな計画を作成している。	
43	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	毎日の様子を記録に残し毎月1回カンファレンスを行うことで情報を共有しケアマネに情報提供することでケアプランの見直しを活かしている。	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
44 (18)	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	緊急対応時の受診を行っている。24時間医療連携体制を基に訪問看護と連携を図っている。	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
45	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	毎月1回のお話ボランティアの訪問、小学校の運動会、音楽会の参加、地域の方の指導の基書道、歌体操への参加、地域のスーパーへの買い物等は出来ているが、警察、消防等の連携については不十分	警察署、消防署の連携、また指導を行って頂けるよう調整を取りたい。
46	事業所の地域への開放 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)。	事業所の2階ホールを地域のサークル活動や交流施設に利用していただき参加もしている。状況に応じてボランティアや見学、研修の受け入れは積極的に行っている。	
47	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	特にたのサービスを利用するための支援はしていない。	地域の他のサービスを利用者と結びつけられるよう情報収集に努めたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。		
49 (19)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。		
50	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。		
51	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員(母体施設の看護師等)あるいは地域の看護職(かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等)と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。		
52	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。		
53 (20)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。		終末期についての考えを出来るだけ早い段階から家族にお聞きすることと、本人の日頃の関わりの中からくみ取っていく。
54	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。		
55	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている		住み替えを行う場合ケア関係者間で十分な連携を図る。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
56 (21)	<p>プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>		記録等、個人情報管理の徹底。一人一人の尊厳を守る声掛け、対応を職員間で共通意識を持つ。
57	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>		
58	<p>“できる力”を大切にされた家事への支援 家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。</p>		
59 (22)	<p>日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
60	<p>身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>		理美容に関しては毎月一度の訪問にて実施されるが、ご本人の要望を聴いている。外出時の洋服などご自分で選択されるような支援をしている
61 (23)	<p>食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>		食事は厨房から届くが配膳、盛り付けを利用者と一緒に行い方付けも一緒にしている。月に一度手作りおやつや手作りおかずを実施している。
62	<p>本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。</p>		現在の所タバコを吸う利用者はいない。お酒に関してはノンアルコールビールをお楽しみ昼食会時に提供している。水分補給時はコーヒー、紅茶、りんごジュース等提供している。
63	<p>気持ちのよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。</p>		トイレ誘導は個別に排泄パターンを把握しトイレでの排泄を実施できるよう支援している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
64 (24)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	毎日入浴を実施している。希望を聴き夕食後がよい方はその時に実施している。		
65	安眠休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。	生活パターンを把握し入眠時間を検討している。本人の意思により居室で休息できるように声かけを行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
66 (25)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	残存能力を活かし一人一人出来る事を日常生活の中で行えるような環境を作り、散歩、外出、買い物を実施している。		
67	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	理解力のある利用者には買い物時に好みの物を買う事で支援している。		
68 (26)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	散歩、買い物、外出、畑の世話など必要に応じて行っている。		
69	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かける機会をつくり、支援している。	家族交流会での外出やりんご狩りへの外出も計画し実施している。		
70	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人に希望があれば実施している。電話はいつでも使用できる。		家族や友人へ年賀状、暑中見舞など出せるよう取り組んでいく。
71	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	家族、知人等が訪問しやすいように居室や談話室で過ごしていただいている。		
72	家族の付き添いへの支援 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。	現在希望はないが、希望がある場合は対応できるよう予備のベット等準備できている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
73	<p>家族が参加しやすい行事の実践 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。</p>		
(4) 安心と安全を支える支援			
74 (27)	<p>身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。</p>		
75 (28)	<p>鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。</p>		
76	<p>利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。</p>		
77	<p>注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。</p>		
78 (29)	<p>事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。</p>		
79 (30)	<p>急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。</p>		
80	<p>再発防止への取り組み 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や”ヒヤリハット報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
81 (31)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	災害対策は県や公民館の指導を受けている。避難誘導訓練は火災が主であるが年に2回行っている。		地域住民の協力が得られるような体制作りが必要と考える。
82	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	ケアプランを立案する際や評価を行う際に、リスクについて説明を行っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
83	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異常の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎朝バイタル測定を行い、異常があった場合には医療連携体制を取っている訪問看護に連絡、報告し必要であれば協力医療機関に受診している。また申し送りノートに記入することで職員間での情報が共有できる。		
84 (32)	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	薬の説明書を個人ファイルやお薬手帳に閉じ全職員が確認できるようにしている。また月に2回の往診時の服薬の状況や症状変化を報告するようにしている。		
85	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	毎日ヤクルト、牛乳などの飲み物を提供している。本人では排便コントロールの不可能な方は定期的に下剤の服用をしている。		乳製品の飲めない利用者の対応を考える。
86 (33)	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	毎食後、口腔ケアを実施し、義歯の利用者様は週に2回の義歯消毒を実施している。ご自分で出来る方は声掛け見守りで実施している。		
87 (34)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事摂取量は毎食把握するようにし、水分摂取も外出時や入浴後など水分確保の支援を行っている。		
88 (35)	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	「感染対策委員会」を施設内に設置した「感染対策マニュアル」を作成しそれに沿い対応している。うがい、手洗いの実施。手すりや共同スペースは定期的に消毒を実施している。		
89	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	調理用具は定期的に洗浄を行っている。食洗器にて熱風消毒を実施。食材は厨房より届くようになっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
90	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関や建物周囲に花や観葉植物がある。	
91 (36)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	食堂やエレベータ横に季節の花が飾ってありまた、居室前や壁には利用者様の作品が飾ってあり明るい雰囲気になっている。	
92	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	居室は一人一人個別になっている、共用空間では畳コーナーの設置、ソファの設置により気の合った利用者様同士過ごせる工夫をしている。	
93 (37)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	タンスは施設の物で個人の家具、仏壇、テレビ、CDプレーヤーなど使い慣れたものを持ち込まれることで居心地よく過ごされる。	
94	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	毎日掃除の時は換気を行い温度調節も行っている。	
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
95	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送ることができるように工夫している。	トイレや廊下、居室内は手すりを設置し安全に歩行できるようにしている。また廊下も広く杖歩行、歩行器歩行の方も自立した生活が出来る。	
96	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	居室前に名前と写真を掲示することで利用者様も確認し自立への支援をしている。	
97	建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	ベランダにて洗濯物を干したり、花を植えたり、畑にて野菜を育て収穫するようにしている。	

項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	
V. サービスの成果に関する項目		
98	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<input type="checkbox"/> ①ほぼ全ての利用者の <input type="checkbox"/> ③利用者の1/3くらいの <input checked="" type="checkbox"/> ②利用者の2/3くらいの <input type="checkbox"/> ④ほとんど掴んでいない
99	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	<input checked="" type="checkbox"/> ①毎日ある <input type="checkbox"/> ③たまにある <input type="checkbox"/> ②数日に1回程度ある <input type="checkbox"/> ④ほとんどない
100	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	<input checked="" type="checkbox"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> ④ほとんどいない
101	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。	<input type="checkbox"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> ③利用者の1/3くらいが <input checked="" type="checkbox"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> ④ほとんどいない
102	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	<input type="checkbox"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> ③利用者の1/3くらいが <input checked="" type="checkbox"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> ④ほとんどいない
103	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	<input checked="" type="checkbox"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> ④ほとんどいない
104	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。	<input checked="" type="checkbox"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> ④ほとんどいない
105	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	<input checked="" type="checkbox"/> ①ほぼ全ての家族等と <input type="checkbox"/> ③家族の1/3くらいと <input type="checkbox"/> ②家族の2/3くらいと <input type="checkbox"/> ④ほとんどできていない
106	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	<input type="checkbox"/> ①ほぼ毎日のように <input checked="" type="checkbox"/> ③たまに <input type="checkbox"/> ②数日に1回程度 <input type="checkbox"/> ④ほとんどない
107	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<input checked="" type="checkbox"/> ①大いに増えている <input checked="" type="checkbox"/> ③あまり増えていない <input type="checkbox"/> ②少しずつ増えている <input type="checkbox"/> ④全くいない
108	職員は、活き活きと働けている。	<input type="checkbox"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="checkbox"/> ③職員の1/3くらいが <input checked="" type="checkbox"/> ②職員の2/3くらいが <input type="checkbox"/> ④ほとんどいない
109	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input checked="" type="checkbox"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> ④ほとんどいない
110	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input checked="" type="checkbox"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="checkbox"/> ③家族等の1/3くらいが <input type="checkbox"/> ②家族等の2/3くらいが <input type="checkbox"/> ④ほとんどできていない